

これまで生きてきて

また一つ歳を重ねた。毎年書いているが、誕生日を「記念」して、わが人生の歩みを記録しておきたい。

1948年に生まれたので、敗戦から3年後で戦後の混乱した時代であった。名古屋市千種区千種本町1丁目の「鉄道（国鉄）官舎」で育った。幼少の頃はとにかく病弱で、近所の医者から「この子は10歳まで生きられるか」と言ったら、母から何回も聞かされた。でも小学校に入学する頃には、ひ弱ではあったが、元気に通学するようになった。親父の転勤により、名古屋から飛騨高山に移り住み、高山市立松倉中学に通った。岐阜県立斐太高校に入学したが、再び親父の転勤で2年のときに岐阜県立郡上高校に「転校」した。なんとか信州大学人文学部に入学でき、「学生運動」にのめり込む。もっと勉強したくなり、大学院を目指すことになり、松本から大阪へと向かう。大阪市立大学近くに下宿して、アルバイトと受験勉強に明け暮れる。2年浪人して宮本憲一先生のもとで大学院生活を送り、オーバードクター1年のときに運良く名古屋市立女子短大への就職が決まる。短大が名古屋市立大学と統合して、市大の教授として延べ35年の教員生活を送る。途中、学部長や研究科長などを務める。退職3年半後、名古屋から大阪に転居して、現在に至る。

ざっと、わが人生の歩みはこんなものだ。戦後日本の経済社会のなかで育ち、荒波にもまれながら生きてきた。医者から10歳までしか生きられないと言われたが、この歳まで生きながらえてきたことに、まずは感謝したい。学生さんらに還暦を祝ってもらい感激し、あつという間に古希も過ぎてしまった。持病も抱えているので、体を「こき」使わず、マイペースで奮闘努力の毎日を過ごしていきたい。

あらためて振り返ると、多くの人のお世話になり、「運」にも恵まれて、この歳まで生きてきたと思う。恩師の宮本憲一先生から「よく耐えて 時の力を頼むべし」という言葉もらったが、悩み多く耐える時期も長かったが、時の力を実感する。高校1年頃までは学力も冴えず、将来に希望が持てなかった。それが郡上高校への「転校」を契機に学力と自信もすこしつき、大学に入学することができた。辛い浪人生活を経て大学院に進学して、教員生活を送ることもできた。幼少から中学までの私からは、考えられないことだ。転校続きで古くからの友だちはいないが、いちど誰かに聞いてみたいものだ。

今年の誕生日にあたり、一つ思いついたことがある。9月17日、「917」を「くいな」と呼んで、あと残された人生を悔いなく生きていこうと決意を新たにしたい。最近も、残念ながら同僚や先輩が亡くなった。「また会えるであろう」と軽く考えていたのが、二度と会うことができなくなってしまい、後悔するばかりである。そんな後悔をしないよう、コロナ禍で困難も多いが、悔いなく生活していきたい。それと研究教育に長らく関わってきた者として、これからも自分の考えをどんどん発信していきたい。

(2021年9月17日)